

米国 変動の大きい項目の一時的な下ぶれでコア低下 (17年11月消費者物価)

: 2017年12月14日(木)

～より実態に近い連鎖CPIコアは前年比で5ヶ月ぶりに低下～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

消費者物価 (Consumer Price Index)

	総合		コア		エネルギー	消費者物価					商品コア	サービスコア
	前月比	前年同月比	前月比	前年同月比	前月比	食料品	住宅	アパレル	運輸	医療	前月比	前年同月比
16/11	+0.209	(+1.7)	+0.182	(+2.11)	+1.0	▲0.0	+0.2	▲0.3	+0.6	+0.1	▲0.2	+0.3
16/12	+0.257	(+2.1)	+0.220	(+2.20)	+1.2	▲0.0	+0.3	▲0.4	+0.8	+0.2	+0.0	+0.3
17/01	+0.551	(+2.5)	+0.308	(+2.27)	+4.0	+0.1	+0.3	+1.4	+2.2	+0.2	+0.4	+0.3
17/02	+0.122	(+2.7)	+0.206	(+2.22)	▲1.0	+0.2	+0.3	+0.6	▲0.5	+0.1	▲0.0	+0.3
17/03	▲0.288	(+2.4)	▲0.122	(+2.00)	▲3.2	+0.3	+0.1	▲0.7	▲1.4	+0.1	▲0.3	▲0.1
17/04	+0.167	(+2.2)	+0.071	(+1.88)	+1.1	+0.2	+0.3	▲0.3	+0.1	▲0.2	▲0.2	+0.1
17/05	▲0.128	(+1.9)	+0.063	(+1.73)	▲2.7	+0.2	+0.2	▲0.8	▲1.4	▲0.0	▲0.3	+0.2
17/06	▲0.023	(+1.6)	+0.119	(+1.70)	▲1.6	▲0.0	+0.1	▲0.1	▲0.7	+0.4	▲0.1	+0.2
17/07	+0.106	(+1.7)	+0.114	(+1.69)	▲0.1	+0.2	+0.1	+0.3	▲0.1	+0.4	▲0.1	+0.2
17/08	+0.402	(+1.9)	+0.248	(+1.68)	+2.8	+0.1	+0.4	+0.1	+1.4	+0.1	▲0.1	+0.4
17/09	+0.548	(+2.2)	+0.127	(+1.69)	+6.1	+0.1	+0.2	▲0.1	+2.8	▲0.1	▲0.2	+0.2
17/10	+0.108	(+2.0)	+0.225	(+1.77)	▲1.0	+0.0	+0.3	▲0.1	▲0.5	+0.3	+0.1	+0.3
17/11	+0.386	(+2.2)	+0.117	(+1.71)	+3.9	+0.0	+0.2	▲1.3	+1.9	+0.0	▲0.1	+0.2

(注) 括弧内は前年同月比

11月の総合が前月比+0.386%と加速した一方、CPIコアは前月比+0.117%と減速した

17年11月の消費者物価(総合)は、前月比+0.386%(前月同+0.108%)と市場予想の前月比+0.4%と概ね一致した。エネルギー・食品を除く消費者物価(CPIコア)が前月比+0.117%(前月同+0.225%)と前月から鈍化し、緩やかな上昇にとどまった(市場予想同+0.2%)。競争激化によるアパレルの下落幅拡大のほか、変動の大きいホテル等宿泊費や公共サービスの一時的な下ぶれによって押し下げられた。一方、エネルギーがガソリンの上昇や、電気・ガス、燃料油の加速により前月比+3.9%(前月同▲1.0%)と上昇に転じたほか、食料品が前月比+0.0%(前月同+0.0%)と変わらずとなった。

11月のCPIコアは財価格が下落に転じたうえ、サービス価格が鈍化

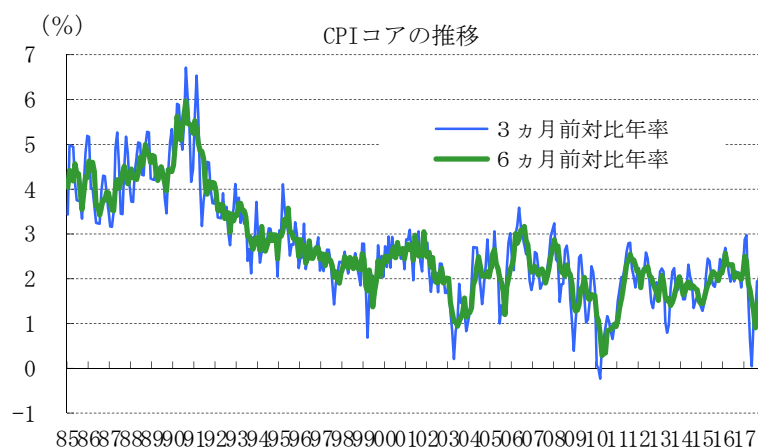
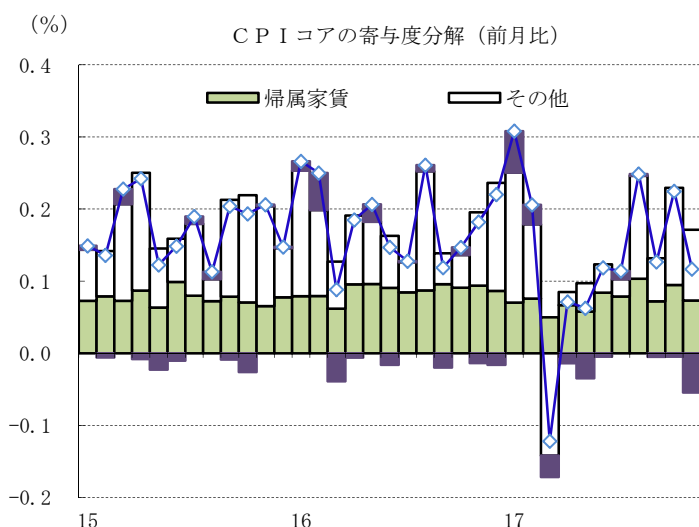
CPIコアでは、商品(財)が下落に転じたうえ、サービスの伸び率が鈍化した。商品(財)価格では、新車、処方箋医薬品が上昇に転じたほか、中古車、教育関連書籍、アルコール飲料が加速した。一方で、家庭用家具・備品の下落が続くなか、アパレル、テレビやゲームなど娯楽商品が下落幅を拡大したうえ、IT関連商品が下落に転じた。また、処方箋外医薬品やタバコ、歯ブラシ、化粧品などその他財が鈍化したことで、商品コアは前月比▲0.1%(前月同+0.1%)と下落した。

サービスに関しては、賃貸料が前月比+0.3%(前月同+0.3%)と高い伸びを続けるもと、スポーツイベントや会員サービスなどを含む余暇サービスが同+0.2%(同▲0.1%)、インターネットサービスが同+0.2%(同▲0.3%)と上昇に転じたうえ、カー・リースが同+1.6%(同+0.2%)、自動車保険が同+0.8%(同+0.1%)と加速した。また、レンタカーが前月比▲0.1%(前月同▲2.5%)と下落幅を縮小した。一方、携帯電話サービスが大幅な値引き競争の一巡により上昇を続けていたが前月比+0.3%

(前月同+0.4%)と小幅鈍化したほか、航空運賃など公共サービスが同▲2.5% (同+0.6%)、変動の大きいホテル等宿泊費が同▲1.6% (同+1.8%)、医療保険などを含む医療サービスが同▲0.1% (同+0.3%)と下落に転じた。また、帰属家賃が同+0.2% (同+0.3%)と鈍化したこと等を背景に、サービスコアは前月比+0.2% (前月同+0.3%)と低下した。

CPIコアのモメンタムは安定

CPIコアのモメンタムをみると、3ヵ月前対比年率で+1.9% (前月+2.4%)と鈍化した一方、6ヵ月前対比年率で+1.9% (前月+1.8%)と加速したが、ともに安定した伸びとなった。携帯サービスの価格引き下げなど一時的な要因で下ぶれていたが、足元で影響が弱まっており、CPIコアの上昇モメンタムは安定的な水準を回復している。



11月の前年比ではCPI総合が+2.2%と上昇も、CPIコアは+1.7%に鈍化

11月の消費者物価動向を前年比でみると (以下、前年同月比)、総合が+2.2%と前月の+2.0%から上昇し、市場予想の+2.2%と一致した。CPIコアが+1.7% (前月+1.8%)と鈍化し市場予想+1.8%を下回ったものの、エネルギーが+9.4% (前月+6.4%)、食料品が+1.4% (前月+1.3%)と上昇した。

CPIコアでは、財コアが▲0.9% (前月▲1.0%)と下幅を縮小した一方、サービスコアは帰属家賃、賃料、自動車保険など需要の強い分野の上昇が続く中で、昨年急激に上昇した医療費の低下や携帯サービスの大幅な下落等による押し下げ圧力を背景に全体で+2.5% (前月+2.7%)とプラス幅を縮小した。

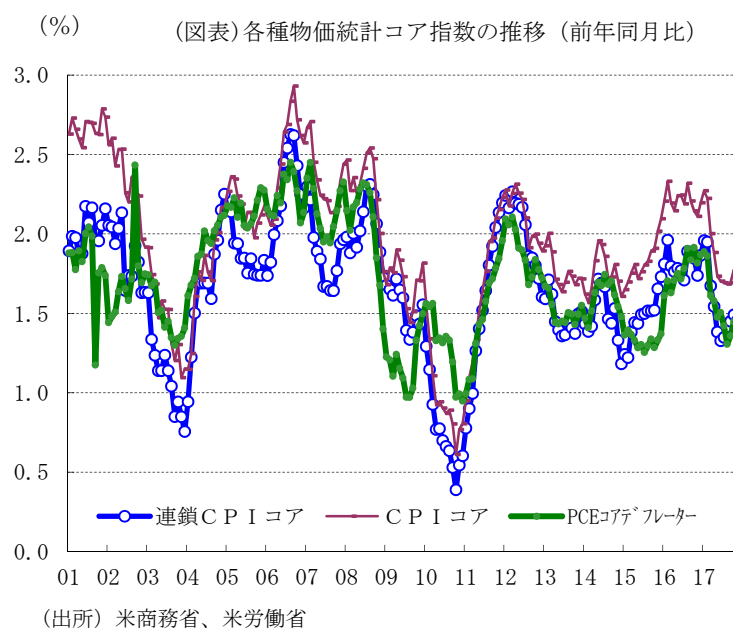
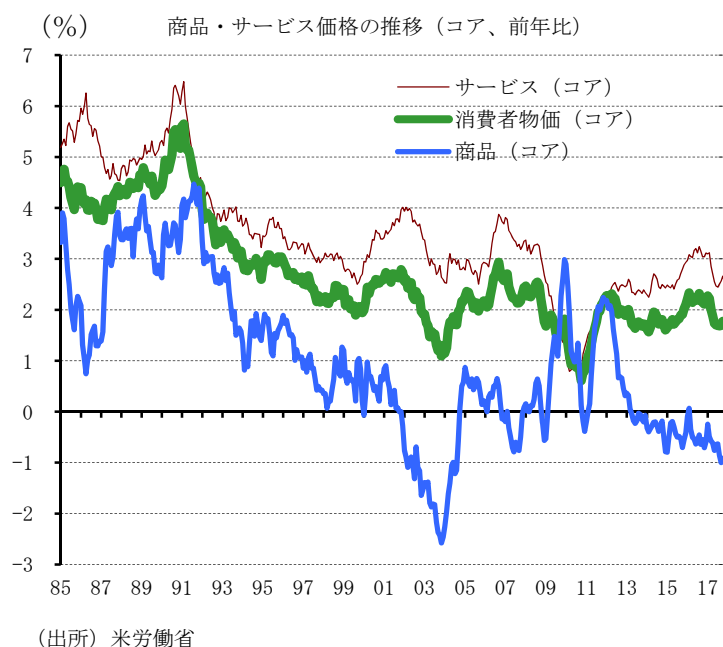
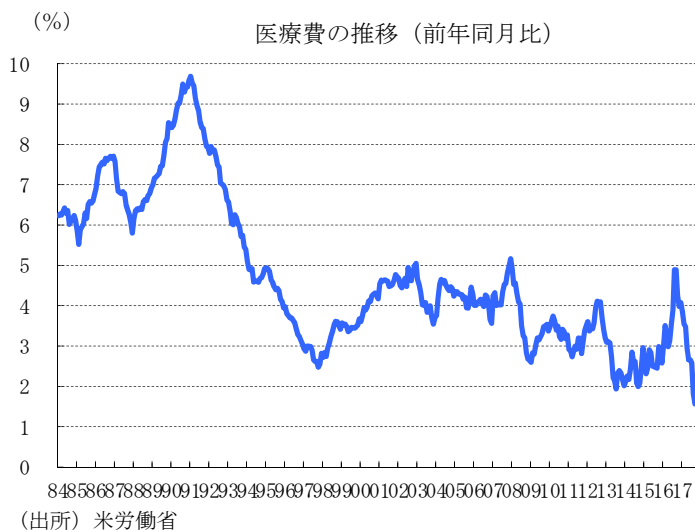
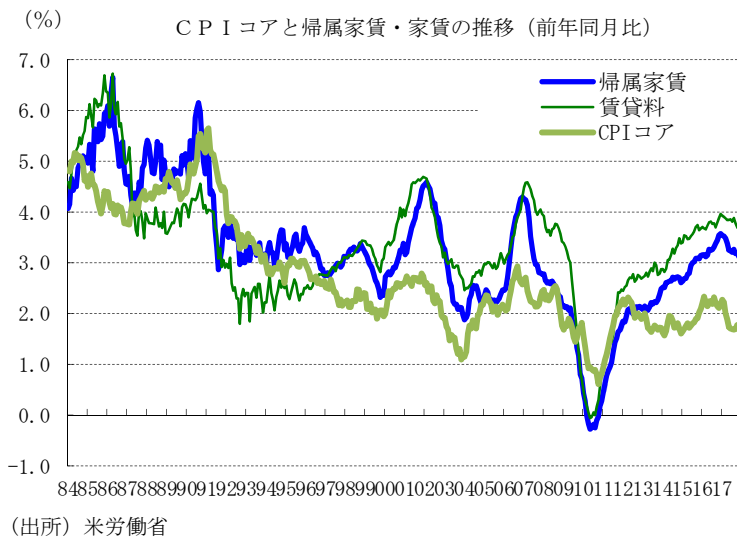
また、より実態に近い物価動向を示す連鎖CPIコアは+1.45% (前月+1.49%)と5ヵ月ぶりに低下した。

これまで公表された統計から、FRBが目標としている11月のインフレ統計を予測すると、PCEデフレーターは前年同月比+1.8% (前月同+1.6%)、PCEコアデフレーターは前年同月比+1.5% (前月同+1.4%)に上昇すると予想される。

CPIコアは今後徐々に上昇する見込み

消費者物価 (CPI) コアは、医療費の下押し圧力が弱まるため上昇を継続すると予想される。ただし、緩やかな景気拡大、激しい価格競争、技術革新などを背景に、中期的に前年比+2%程度での推移を続けると見込まれる。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。